長野大学
NAGANO UNIVERSITY

――「おもしろそう」がきっとある ――

―特集１―
公立大学法人化について

―特集２―
長野大学の学びと特色
夢を叶えた先輩たち ～就職内定者の声～

心繋がる。
未来繋がる。
50th Anniversary
長野大学は2016年に
創立50周年を迎えます。

長野大学は
2017年4月の
公立大学法人化をめざしています。

受験生のみなさんへ

あまり知られていませんが、長野大学は地元自治体（現 長野県上田市）の出資による「公設民営大学」の先駆けという歴史を持っています。

50年前、地域の熱い期待と地元で学びたいという若者の切実な思いを受けて設立された「地域立」の大学です。

それから約半世紀、「地域にとっての大学とは?」「大学は地域とどう向き合っていくべきか?」について絶えず自らに問い続けてきました。
たどりついたのは、これからの地域社会を支える若者を地域と共に育成し、しっかり送り出すことを通じて地域に貢献したいという、極めて明快な答えでした。

地域にできる恩返しとは何か。たとえば人口減少等に起因する、地域が抱える諸問題について、地域住民及び自治体と手を携えて課題解決を図ること。また地元の若者が地域に定着しやすい仕組みを作ること。地域で生まれ、地域で育ち、地域で活躍することが「地域力」につながる ―― 。
これらが「公立大学法人」をめざす長野大学に課せられた使命であると考えています。

公設民営大学だからこそ掲げる「公立大学法人化」による理想の大学像 ―― 。

長野大学はこれからも追求してまいります。

地域で生まれ、地域と生きる。これからも。

沿　革

1966年（昭和41年）	本州大学（経済学部経済学科）を開学
1974年（昭和49年）	大学名を長野大学に改称し、産業社会学部 産業社会学科・社会福祉学科に改組
1988年（昭和63年）	産業社会学部産業情報学科を開設
1993年（平成5年）	生涯学習センター（現在の地域連携センター）設立
1997年（平成9年）	開学30周年記念事業として9号館（図書館）竣工
2002年（平成14年）	社会福祉学部社会福祉学科を開設
2007年（平成19年）	産業社会学部を改組し、環境ツーリズム学部 環境ツーリズム学科・企業情報学部企業情報学科を開設
2008年（平成20年）	長野大学憲章制定
2014年（平成26年3月）	上田市に「長野大学の公立大学法人化に関する要望書」を提出
2015年（平成27年6月）	上田市が設置する検討委員会が、本学の公立化を「是とする」報告書を上田市長に提出
2015年（平成27年8月）	上田市長が2017年度（平成29年度）に公立大学法人移行をめざす考えを表明
2015年（平成27年10月）	上田市に「公立大学法人化準備室」を設置
2016年（平成28年）	開学50周年

この地に生きる、教養ある職業人の育成

長野大学の学びと特色

長野大学から夢を叶えた先輩たち

長野大学の擁する3学部ではそれぞれ特色のある学びを展開し、地域社会に必要とされる人材の育成に力を入れています。
4年間のキャンパスライフで先輩たちは何を学び、何を見つけたのか。
ここでは、大学での学びを未来に繋げた学生たちから、高校生のみなさんへメッセージをお届けします。

社会福祉学部

めざす資格や職業に応じた多彩な５つのコース

「社会福祉コース」「精神保健福祉コース」「子ども家庭福祉コース」「福祉心理コース」「特別支援教育コース」の５つのコースから、めざす将来に向けて効果的に専門性を高めることができます。

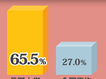
充実した体験型学習

実習やボランティア活動など体験型学習を重視し、2年次の「社会福祉基礎実習」では、長野県の先進的な福祉モデルをいち早く体験することができます。

全国平均を上回る国家試験合格率を支える「国家試験対策」

社会福祉士と精神保健福祉士をめざす学生を支える「国家試験対策室」が中心となり個別指導によって、学生のやる気を引き出し、高い合格率を達成しています。

社会福祉士国家試験合格率　受験生50名以上（新卒）の私立大学(全国48校)中　第2位



長野県庁（社会福祉職）

社会福祉学部　荻原 実咲さん　長野県 野沢北高等学校出身

人に寄り添い、人を支えることができる県職員になっていきたい

県庁の社会福祉職をめざしたきっかけは、大学１年の時から行っていた児童養護施設でのアルバイトでした。「保育補助」として2歳から6歳の子どもに、お昼や起床の持ち方を教えたり、一緒に遊んだりしていましたが、保護者の方と接する機会もありました。保護者の方の話を聞くと、働いていても収入がない、教育や子育てに悩みを抱えているなど、それぞれの方が深刻な事情を抱えており、子どもたちを取り巻く環境を変えていくことが大切だと感じるようになりました。県庁で社会福祉職として働くことで、長野県の福祉政策に関わり、福祉の現場を支えることができます。

今は社会福祉士と精神保健福祉士の合格に向けて勉強していますが、卒業後は大学で学んだ専門知識と技術、実習をフルバイトを通して触れてきた現場での経験を活かして、人に寄り添い、人を支えることができる職員になりたいと思います。

社会福祉法人 かりがね福祉会

社会福祉学部　丸山 沙明那さん　長野県 塩尻志学館高等学校出身

だれもが地域の中で その人らしく生活できるように支えていきたい

私が長野大学を選んだのは、福祉施設での実習や資格取得の支援がしっかりしていることが決め手でした。大学３年の実習で行った精神科病院では、精神保健福祉士の資格を持った職員さんにサポートしてもらいながら、利用者の退院支援や家族からのサポートに関する相談を受けるなど、実際の仕事に近い形を経験することができました。今は、社会福祉士と精神保健福祉士の2つの資格取得に向けて勉強しています。難しい試験ではありますが、徹底した個別指導で先生が親身にバックアップしてくれることと、共に励まし合う仲間がいるので頑張ることができています。

卒業後は、施設を利用する人が地域でその人らしく生活できるように支えられる職員になりたいです。

上越教育大学大学院（学校教育専攻 臨床心理学コース）

社会福祉学部　内山 佳音さん　長野県 篠ノ井高等学校出身

「福祉と心理」両方学んだことで将来なりたいものが見つかった

母が福祉施設で働いていたこともあり、人の心に寄り添った支援ができるようになりたいとの思いから、福祉と心理の両方を学べる長野大学を選びました。

大学２年の自治体実習では、支援を必要とする人がどのような人なのかを知り、施設の役割や職員の仕事などの福祉サービスを体系的に学んだことで、ソーシャルワーカーとして働くことへの思いが強くなりました。そんな私にとって転機となったのは、大学３年の時に受講した児童・家庭福祉制度の講義でした。家庭の経済的な事情や友人関係に悩み学校に通うことができない子どもたちがいることを知り、福祉と心理の両方を学んでいることを活かし、スクールカウンセラーとして、子どもたちと関わりたいと思うようになりました。

今後は、大学で培った福祉と心理の知識を活かして大学院で心理学の専門性を高めることで、子どもたちの心に寄り添った支援ができるようになりたいです。

環境ツーリズム学部

地域社会と密接につながった体験型の学びで成長する

地域社会と密接につながった体験型の学びを大切にしています。地域の自然に触れ、人に触れ、仕事に触れる経験が、あなたの「知っていること」を「できること」に変えてくれます。

「環境」「観光」「地域ビジネス」興味に合わせて学べる３つのコース

自然環境の守り方と活かし方を学ぶ「環境コース」、地域独自の魅力を発見・発信する方法や考え方を学ぶ「観光コース」、地域を安定して発展させるための知識や考え方を学ぶ「地域ビジネスコース」の3つのコースから、自分がもっとも興味を持つ分野を中心に横断的に学ぶことができます。

課題を発見し解決できるチカラを身につけ「人々の暮らしを支える仕事」に就く

卒業生は、公務員やJA、食品メーカー、観光業など「人々の暮らしを支える仕事」で活躍しています。大学での経験を活かし、夢を実現させます。

上田市役所（行政職）

環境ツーリズム学部　熊井 沙緒理さん　長野県 須坂高等学校出身

地域住民の方から信頼される職員になりたい

私が市役所の職員を意識したのは、里山の調査で地域の方に協力していただいた時でした。地域の方から、森林と地域の共存には整備や保全が大切であるということを聞き、行政の立場で地域課題の解決に関わりたいと思うようになりました。大学には、公務員をめざす学生を基礎から受験対策までしっかりサポートしてくれる「公務員特別コース」があり、私は４年間受講を続けてきました。予備校に通うことなく、大学の授業が終わった後に受講することができたので、無理なく続けて来られました。なによりも、同じ公務員をめざす仲間がいたからこそ、がんばることができたと思っています。

卒業後の配属先はまだ決定していませんが、地域の課題を解決するためには、一人ひとりの方と向き合い、話を聞くことが第一歩になると思うので、そうした努力を大切にして、信頼を得られる職員を目指していきたいです。

株式会社 池の平ホテル＆リゾーツ

環境ツーリズム学部　三木 明日香さん　長野県 塩尻志学館高等学校出身

おもてなしの心を持って対応できるスタッフをめざしたい

私は観光まちづくりゼミに所属し、地域の振興に役立てるイベントの企画、運営に携わりました。大学３年のインターンシップは、観光で訪れる約客さまと接する仕事を体験したいと思っていたので、松本市立博物館を選びました。受付や館内案内だけでなく、市内14カ所に点在する別館への行き方や近隣の観光地のおすすめなどの質問にもお答えしなくてはならず、柔軟な対応力が求められました。博物館スタッフは観光客の方にその日１日を心から楽しんでいただきたいという「おもてなしの心」を持って対応していたので、やりがいのある素敵な仕事であると感じました。

内定先は子どもから年配の方まで、特に親子三世代での利用が多いリゾート施設です。常にお客さまの視点に立ち、満足していただけるおもてなしを考え、仕事に取り組みたいと思います。

株式会社 マイナビ

環境ツーリズム学部　北村 幸秀さん　長野県 長野俊英高等学校出身

人と接しながら、地域を元気にする仕事がしたい

所属する水環境学ゼミでは、「イワナを観光資源として活用したい」という地域の方からの要望を受けて、イワナの生態系調査や研究に取り組みました。川に入って食性を調査するなど大変なこともありましたが、地域の役に立てることがやりがいでした。また、私はゼミの代表を務めていたので、研究の進捗状況やゼミ運営を円滑に進められるように気を配りました。先生や地域の方と接する機会が多かったこともあり、人間関係の築き方や年齢が上の人との意思疎通の方法やプレゼンテーションの仕方など、人として成長することができたと思います。

卒業後は多くの人や会社と関われる企業で働きたいと思い、就職活動をしてきました。面接試験の時には、ゼミでの活動で自然と身についたコミュニケーション力や人柄を重視していただいたと思っています。将来は仕事を通じて、私の大好きな長野を元気にする仕事がしたいと思っています。

企業情報学部

本気でやりたい仕事を見つけるための「プロジェクト型学習」

「プロジェクト型学習」とは、学生一人ひとりが実際のビジネスを想定した研究テーマを設定し、「目標を決める」「目標を達成する」「達成した目標を振り返る」という3つの過程を通して学ぶ方法です。

実際のビジネスを見据えた３つのコース

「経営コース」「情報コース」「デザインコース」の3つのコースから希望の学びを選択します。実際の企業活動をイメージし、ビジネスシーンに必要な専門知識や発想力、コミュニケーション力などを身につけ、卒業後の職業選択につなげます。

将来について実践的に考えるキャリア学習

学生一人ひとりが「社会や企業・組織で生きる」ことを想像し、そのためには何が必要かを考えられるよう１年次から展開しています。段階的な学びによって「社会で生きていく」力を身につけていきます。

東日本旅客鉄道 株式会社

企業情報学部　栗田 於三司さん　長野県 松代高等学校出身

常にお客様目線で考える姿勢を持ち続け、仕事に取り組みたい

私は大学２年から経営コースのゼミに所属し、３年の時には地元のホテルに新たな商品を提案するプロジェクトに参加しました。

私たちのチームはホテルの宿泊事業に着目して、宿泊客に快適な睡眠を提供する方法や地元食材を利用した食事メニューを提案しました。ホテルの宿泊事業は収入の中心となるものであり、チームの意見をまとめる役割も担っていたためプレッシャーもありましたが、自分たちの考え方を１つのプランにまとめ、提案できたことは自信になりました。また、プロジェクトを通して、常にお客様の立場で考える姿勢や責任感が身についたと思います。

内定先の企業でも、ゼミの経験を大切にして、「何度も利用したい」と思ってもらえるような駅づくりができるように仕事をしていきたいです。

北野建設 株式会社

企業情報学部　須田 純平さん　長野県 長野商業高等学校出身

大学で身につけた課題解決力を活かしていきたい

私の所属するゼミでは、実在する企業をモデルに、企業が抱える経営課題を研究してきました。

企業の課題を発見し、問題の解決に至るまでの過程では、一つの正しい答えを出すよりも多面的な視点で考えていく必要があります。私のチームは、メガネ業界にスポットを当て、新しい顧客を取り込む方法としてカップル向けにペアで使えるメガネを企画しました。ゼミでは、学年が違っていても、遠慮せずに活発に意見を出し合いながら議論を進め、全員で悩みながら結論を出していくプロセスが重要で、今回の結論に行き着くまでにも何度も議論を重ね、全員が納得するまで話し合いました。

内定先は国宝の善光寺（長野市）の保存維持にも取り組んでいるので、私も地元を代表するような建築に関わり、長野県やお世話になった方々に恩返しできればと考えています。

アルプス中央信用金庫

企業情報学部　櫛田 薫さん　長野県 箕輪進修高等学校出身

地域と関わりながら、地域に貢献できる仕事がしたい

私は大学１年の時からオープンキャンパスのスタッフとして活動してきました。私が学んでいる経営学の面白さ、奥深さを高校生に伝えたいと思い、模擬授業では、少人数のグループに分かれてお菓子の新商品企画を考えて発表してもらうことを企画しました。実際に販売されているお菓子を準備し、食べてもらいながら考えてもらったり、アドバイスをする先輩サポーターをグループに１名配置したりするなどの工夫をしました。参加してくれた高校生が大学で学ぶことの面白さに気づいて、笑顔で帰ってもらえることにやりがいを感じていました。

内定先の企業は、地域社会との共生に力を入れていて、地域に密着した金融機関です。オープンキャンパスで培ったコミュニケーション力と企画力を活かして、いつかお客様から「櫛田さんにお願いしたい」と言ってもらえるように頑張っていこうと思います。

学生の活動が高い評価を受けました!!

企業情報学部３年櫻井千寛さんが、日本学生支援機構が実施する「平成27年度優秀学生顕彰」の学術分野優秀賞を受賞しました。
優秀学生顕彰は、学術、文化・芸術、スポーツ、社会貢献、産業イノベーション・ベンチャー、国際交流の各分野で優れた業績を挙げた学生に対して、これを奨励・支援し、21世紀を担う前途有望な人材の育成を支えることを目的としています。今年度は、全国から114名の応募があり、60名が受賞しました。本学では平成20年度から8年連続での受賞となりました。
また、櫻井千寛さんと環境ツーリズム学部2年牧口未和さんの所属する里山再生学ゼミの活動が長野県出身者の育英事業を行う信濃育英会の「明るい社会に貢献する奨学生」に採用されました。この奨学金はボランティアや国際交流など社会貢献に取り組む学生に贈られます。本学では平成19年度から9年連続で採用となりました。

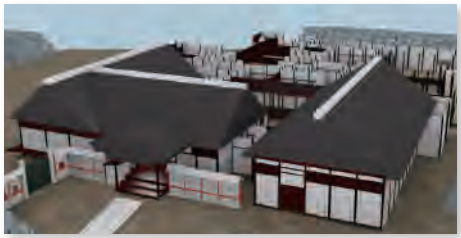
8年 連続受賞
日本学生支援機構
優秀学生顕彰

9年 連続採用
信濃育英会
明るい社会に貢献する奨学生

日本学生支援機構「優秀学生顕彰」学術分野優秀賞 受賞
信濃育英会「明るい社会に貢献する奨学生」採用

CG 復元技術を使って現代に小諸城を再現するプロジェクト

江戸中期の古文書の情報に基づいて、既に失われている歴史建造物（小諸城）のかつての姿をCGで復元し、地域住民や子どもたち・若い世代に理解してもらう活動です。


▲CGで復元された小諸城 本丸

企業情報学部３年
櫻井 千寛さん
長野県 丸子修学館高等学校出身

小諸城（長野県小諸市）は災害などにより建物の多くを失ってしまった文化財のひとつです。CG 技術を使えば、小諸城が実在した頃の様子を地域の方や子どもたちにも見てもらい、残すことができます。110枚にもおよぶ古文書を計測してCG で復元するのは大変な作業でしたが、賞をいただき、今までの研究の成果が評価されたことに喜びを感じています。
今後は、小諸城だけではなく、長野県内の失われた文化財もCGで復元したいと考えており、この活動を通じて地域の文化財の重要性を多くの人に伝えていきたいと思います。

▲古文書を計測する櫻井さんら

信濃育英会「明るい社会に貢献する奨学生(団体)」採用

東日本大震災の大津波で被災した海岸防災林や里山の再生をめざすプロジェクト（通称：たねぷろじぇくと）

長野大学と宮城県・長野県の小学校3校が協力し合って、被災地・宮城県山元町で採取した種子から苗木を育て、被災地に植栽し、豊かな森林へと育てていく活動です。

▲調査の様子

環境ツーリズム学部２年
牧口 未和さん
新潟県 柏崎常盤高等学校出身

里山再生学ゼミの学生は「たねぷろじぇくと」の主力メンバーです。苗木生産の他に、ワークショップの企画・運営に取り組んでいます。
ゼミに所属する私は、ネイチャーゲーム「葉っぱでつくろう」を企画し、ワークショップで実施しました。ゲームでは、林で集めた葉っぱから作品を作り、楽しみながら自然について学ぶのがねらいです。ワークショップでは、子ども達から教わることも多く、元気をたくさんもらいます。
今後も、自然とのつながり、人とのつながりを大切に、より充実した企画を考えていきたいです。

▲種子の採取の様子

長野大学 NAGANO UNIVERSITY
発行：平成27年12月 長野大学広報委員会
〒386-1298　長野県上田市下之郷658-1　TEL：0268-39-0020　FAX：0268-39-0012　mail：kouhou@nagano.ac.jp